

「小学校英語」移行措置による 先行実施は来年度から！

移行期間中の授業時数、教材等、現在の検討状況

旺文社 教育情報センター 29年7月5日

32年度から小学校で全面実施される次期学習指導要領。その最大の目玉が英語教育だ。3,4年生から外国語活動が導入され、5,6年生では教科化される。現状、文部科学省は、新たな教材の開発を行うための検討委員会（※）を設置して議論を行っており、今後、説明会などを経て確定となる。ここでは次期学習指導要領（29年3月公示）における小学校英語の概要を振り返りながら検討委員会の最終報告前の状況を報告する。

（※）「小学校の新たな外国語教育における補助教材の検証及び新教材の開発に関する検討委員会」

（注）「英語を履修させることを原則」としているため、正式には「外国語」だが、本文内では「英語」として記述。

◆動機付けの早期化と中学校への接続を重視

現行の学習指導要領では、小学校における英語教育は「聞くこと」、「話すこと」を中心とした「外国語活動」を5,6年生で実施している（年間35単位時間）。これが次期学習指導要領においては32年度以降、年間70単位時間の「外国語」科目となる。また、3,4年生では年間35単位時間の「外国語活動」の時間が追加される。小中高等学校を通じた英語教育改革を計画的に進めるための「英語教育改革実施計画」（25年12月13日公表）の中で提言されている「中学年から外国語活動の導入、高学年での教科化」が実現された形だ。

23年度から導入された外国語活動は、児童の高い学習意欲や積極性が向上したという評価を得ている一方で、音声中心で学んだことが中学校の段階で文字への学習に円滑に接続されていない、英語の発音と綴りの関係や文構造の学習に課題があるという指摘もされている。また、高学年では、児童の思考力が高まる段階にあることから、より体系的な学習が求められることも課題とされていた。

今回の改訂では、成果と課題を踏まえ、高学年から「読むこと」、「書くこと」を加えて総合的・系統的に扱う教科学習を行うとともに、中学校への接続をはかることを重視している。また、高学年への接続として、「聞くこと」、「話すこと」を中心とした活動を通じて外国語に慣れ親しむことを中学年から始めることで、外国語学習への動機付けの早期化をはかっている。

◆授業時間確保と指導教員の育成・確保

ここで問題となるのは、授業時間の確保と指導教員の育成・確保をどうするかだ。

前述の通り、3,4年生、5,6年生いずれも年間35単位時間の増加となるが、これは週1コ

マの増加に相当する。現状4年生以上は通常週28コマの授業が行われており、現実的にこれが限界と考えられている。

授業時間確保の方法として、次期学習指導要領に関する答申(*1)では、10～15分の「短時間学習(帯学習、モジュール学習)」や、夏季、冬季の長期休業期間での対応、土曜日の活用などを提案している。ただし、その運用については「地域や各学校の実情に応じた弾力的な時間割編成を」とされており、活用事例を紹介してはいるものの、対応は各小学校に任されている。

指導教員の育成・確保については、同答申によると、「教育委員会は、大学等と連携し、教員の養成・採用・研修の一体的な改善の取組みを進め、小学校教員の専門性を高めるとともに、中・高等学校の英語教員免許を有する小学校教員や退職教員による専科指導、ネイティブ・スピーカーと学級担任とのチーム・ティーチングなどの指導体制を構築する」よう提言している。また、中核となる教員、研究校が中心となった計画的な研修実施、研究結果の波及により、指導力の専門性を向上させることを求めている。いずれにしても、研修によるスキルアップにかかっているのが現状のようだ。劇的な人材の採用増が望めない中、現職教員への負担増という状況は避けられない。

(*1)「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について」

(28年12月21日中教審答申)

◆移行期間として30年度から先行実施

次期学習指導要領への円滑な移行を図るため、移行期間中(30年度、31年度)の教育課程の特例を設けることも予定されている(29年5月公表「移行措置案」)。

具体的には、3,4年生で年間15単位時間、5,6年生では、現行の35単位時間に15単位時間を追加した年間50単位時間が標準単位時間となる。授業時間の確保に際しては、必要に応じて年間総授業時間数及び総合的な学習の時間から15単位時間を超えない範囲内の授業時間数を減じることができる、としている。他の教科から減らすことは現実的に考えづらいことから、総合的な学習の時間からの授業時間の流用になると思われる。積極的に総合的な学習の時間を活用している小学校では、32年度を待たずに来年度からカリキュラム編成に苦心することになりそうだ。

●移行期間中の授業時数(年間)イメージ図

全面实施

29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
	※H29年度中に必要な教材を配布	※H30年度中に必要な教材を配布		
小5(35)	小6(+15→50)	中1	中2	中3
小4	小5(+15→50)	小6(+15→50)	中1	中2
小3	小4(+15)	小5(+15→50)	小6(70)	中1
小2	小3(+15)	小4(+15)	小5(70)	小6(70)
小1	小2	小3(+15)	小4(35)	小5(70)
年長	小1	小2	小3(35)	小4(35)

出典：文部科学省資料「外国語教育における新学習指導要領の円滑な実施に向けた移行措置(案)」

[表の見方例]

…29年度小学5年生（現行35単位時間）は、30年度6年生時に15単位時間を追加した50単位時間の授業時間となる。

…29年度小学2年生は、30年度、31年度ともに15単位時間の授業時間を追加。32年度5年生時から70単位時間の授業時間となる。

◆移行措置の学習内容

移行措置期間における授業には後述の新教材を利用することを推奨している。その中で提示されている内容は以下の通りだ。

《3,4年生》・・・英語の音声やリズムに慣れ親しむ、言葉の面白さや豊かさに気付く等

《5,6年生》・・・中学校への接続を意識。大文字・小文字の違い。書くことの言語活動等

◆新教材は直前の2月

教員が使用する教材開発については、現行の使用教材（“Hi, friends!” “Hi, friends!2”）をベースに、英語指導に不慣れな教員にも指導しやすい工夫を加え開発されている。高学年用教材は、課題とされていた発音と綴りの関係や文構造、大文字と小文字の違いや文章レベルについての内容が追加される（例えば、5年生のUnit5で三人称、6年生の夏休み明けから過去形に関する題材などが扱われる）。児童用の教材のほか、指導教員用の「年間指導計画例」「年間活動例」「学習指導案例」「指導書」を作成中だ。また、指導方法や取組み事例を収録した「研修ガイドブック」も作成予定だ。作成スケジュールに関しては、現状案の精度を高めながら、30年度の先行実施に間に合うよう、29年2月中には文部科学省から希望する小学校へ送付される予定だが、もともとのスケジュール通りとはいえ、来年度からの授業開始には厳しいスケジュールだ。高学年では文字学習や文法的な内容を教えるための準備期間は必要だろう。カリキュラム編成と担当する教員の準備を並行してすすめることが理想だ。ただ、担任決定の通達は通常、修了式後なので、5,6年生の担任になる教員は1ヶ月弱の準備期間しかない。英語の専科教員やALTが在籍し、学校として指導体制が確立していれば問題ないだろうが、移行期間とはいえ、体制が整っている学校と、そうでない学校との格差は子供たちに少なからず影響を与えるだろう。32年度の全面実施までには、教科指導が可能となる指導体制が、国の支援のもと整備されることを期待したい。

●小学校の外国語教育に係る新教材の整備等 実施スケジュール(イメージ)

日程	新教材の整備
29年6月	【小学校新教育課程説明会】実施 ＜6/21・22:東京、6/2・30:京都、7/6・7:福岡＞
7月	研修ガイドブック(全体版)のデータ共有(HPに掲載)
8月	新教材の需要数調査実施
9月	【新教材説明会】＜9/21 教育委員会主事が主な対象＞ 新教材の活用及び指導方法について伝達 ・5,6年生の教材データ・学習指導案例共有
12月	3,4年生教材データ・学習指導案例、5,6年生デジタル教材データ共有
30年1月	【連絡協議会】研究校における取組事例等について紹介 ・3,4年生デジタル教材データ共有
2月	(完成版:3～6年生)児童冊子・指導書・デジタル教材送付
4月	次期学習指導要領移行措置及び先行実施による授業開始

出典：第4回検討委員会（29年6月19日）配布資料「参考資料3」より抜粋

■【参考】新教材「各学年の年間指導計画例（案・暫定版）」

第3学年

単元 (時数)	単元名	* HFとの関連
1 (2単位時間)	Hello! あいさつをして友達になろう	1-L1
2 (2単位時間)	How are you? ごきげんいかが？	1-L2
3 (4単位時間)	How many? 数えてあそぼう	1-L3
4 (4単位時間)	I like blue. 好きなものをつたえよう	1-L4、1-L5
5 (4単位時間)	What do you like? 何がすき？	1-L4、1-L5 1-L9
6 (4単位時間)	ALPHABET アルファベットとなかよし	1-L6、2-L1
7 (5単位時間)	This is for you. カードをおくろう	1-L5、1-L6
8 (5単位時間)	What's this? これなあに？	1-L4、1-L7
9 (5単位時間)	Who are you? きみはだれ？	2-L7

第4学年

単元 (時数)	単元名	* HFとの関連
1 (2単位時間)	Hello, world! 世界のいろいろなことばであいさつをしよう	1-L1,1-L4
2 (4単位時間)	Let's play cards. 好きな遊びを伝えよう	
3 (3単位時間)	I like Mondays. 好きな曜日は何かな？	1-L8,1-L4
4 (4単位時間)	What time is it? 今、何時？	2-L6
5 (4単位時間)	Do you have a pen? おすすめの文房具セットをつくろう	2-L4
6 (4単位時間)	Alphabet アルファベットで文字遊びをしよう	2-L1
7 (5単位時間)	What do you want? ほしいものは何かな	1-L6
8 (4単位時間)	This is my favorite place. お気に入りの場所をしようかいしよう	2-L4
9 (5単位時間)	This is my day. ぼく・わたしの一日	2-L6,2-L7

第5学年

単元 (時数)	単元名	* HFとの関連
1 (8単位時間)	How do you spell it? アルファベット・自己しようかい	1-L1,1-L4 2-L1
2 (7単位時間)	When is your birthday? 行事・誕生日	2-L2
3 (7単位時間)	What do you have on Monday? 学校生活・教科・職業	1-L8,2-L8
4 (8単位時間)	What time do you get up? 一日の生活	2-L6
5 (8単位時間)	She can run fast.He can jump high. できること	2-L3
6 (8単位時間)	I want to go to Italy. 行ってみたい国や地域	2-L5
7 (8単位時間)	Where is the treasure? 位置と場所	2-L4
8 (8単位時間)	What would you like? 料理・値段	1-L9
9 (8単位時間)	Who is your hero? あこがれの人	

第6学年

単元 (時数)	単元名	* HFとの関連
1 (8単位時間)	This is me. 自己しようかい	1-L4,1-L5 2-L2,2-L3
2 (8単位時間)	Welcome to Japan. 日本へようこそ	
3 (8単位時間)	He is famous.She is great. 日本や世界で活躍する日本人	2-L3
4 (8単位時間)	I like my town. 自分たちの町・地域	
5 (8単位時間)	My Summer Vacation. 夏休みの思い出	
6 (6単位時間)	What sport do you want to watch? オリンピック・パラリンピック	2-L5
7 (8単位時間)	My Best Memory 小学校生活・思い出・行事	
8 (8単位時間)	What do you want to be? 将来の夢・職業	2-L8
9 (8単位時間)	Junior High School Life 中学校生活・部活動	

* HF・・・Hi.friends！の略。記号はそれぞれ、Hi.friends！ Hi.friends！ 2のLessonナンバーをあらわす。

出典：第4回検討委員会（29年6月19日）配布資料「資料1」より抜粋

◆今後の課題

以上は、現段階では決定ではなく「案」の状態だ。とはいえ、中学年の外国語活動の導入、高学年の英語教科化、それらに伴う授業時間の増加は決定事項なので、まずは32年度からのカリキュラム編成と指導体制の策定が喫緊の課題だろう。さらに、移行措置による先行実施が来年度から始まることから、15単位時間の確保と教員の育成・確保は優先課題だ。また、教科化となると「評価」が必要になる。担任と指導する教員が異なる場合や、ネイティブ・スピーカーとティーム・ティーチングする場合、評価の尺度を具体的に決めておくことが重要だ。